

書いていたのにすっぱり抜けていました。挟んでおいてください。

「はじめに、そして勤労者皆保険の話」 xv 頁

手を増やす」という言葉に使用禁止令を出していたりする。終末期の医療の在り方についても、以前から、そして本書でも QOD、すなわち死に向かう医療、生活の質をたかめるために ACP を行うことができる環境を整えることが必要としか論じていない。そして、本書でも提供体制の改革について多くを論じているが、これについては 2013 年 4 月に社会保障制度改革国民会議で私が報告をした際に準備した資料に書いたタイトルは「国民の医療介護ニーズに適合した提供体制改革への道筋——医療は競争よりも協調を」であり、これまで、提供体制の改革は、サービスの質を高めるためにニーズに見合った提供体制にすることとしか論じたことがない。それと、私は、人を見ると労働力というよりは消費者に見えてしまう。この本における経済政策に関する論は、人は消費者として経済に貢献するという観点から論じており、消費は飽和していくという宿命を持つ資本主義は、持続するために社会保障に頼らざるを得なくなるとも論じていたりもする。そして何よりも、『ちょっと気になる政策思想』で考えのベースとなっている、供給の成長はコントロールが難しいが、需要の育成はコントロールできるということが本書のベースにもなっている——このことはあとかきでも触れている。ということで、本書を読んで遊んでもらえればと思う。